

**下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議
報告書（案）**

平成 2 6 年 3 月

<目 次>

1	はじめに ～下京区西部エリア活性化の背景～	1
2	下京区西部エリアの歴史	3
3	来訪者調査の概要	6
4	下京区西部エリアのポテンシャルと課題, 方策	9
4-1	エリアの特徴「6つの資源」	9
4-2	資源ごとの検討	
	資源1 新たな賑わいを創出する梅小路公園	11
	資源2 京都の食文化を支える第一市場	14
	資源3 レトロな商店街空間	17
	資源4 島原の文化と町並み	19
	資源5 東・西本願寺と門前町	22
	資源6 産業・ベンチャーのまち KRP	25
	「6つの資源」の枠を越えた回遊性・連携	27
5	地域連携事業（エリア回遊促進事業）	29
6	今後の取組	31

<参考>

検討会議委員名簿（24年度・25年度）	32
検討会議のあゆみ（24年度・25年度取組一覧）	34

1 はじめに ～ 下京区西部エリア活性化の背景 ～

(1) 活性化の機運の高まりと検討会議の取組

梅小路公園とその界隈では、年間約250万人の集客を誇る「京都水族館」に続き、国内最大級・最高水準の「京都鉄道博物館」が平成28年春に開業予定であるなど、民間事業者による大きな集客施設の整備が進められている。一方、京都市においても、憩いと賑わいの核となる梅小路公園を平成26年3月に拡張再整備されたほか、中央卸売市場第一市場の施設整備に向けた検討などが進められており、民間活力と京都市の施策が融合する中で活性化の機運が高まっている。

こうした動きを契機に、梅小路公園をはじめ、周辺の中央卸売市場やリサーチパーク、商店街、文化・観光施設、大学等も含めた下京区西部エリア全体の活性化を図るためのステップとして、平成24年7月、産・学・公・地域連携による「下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議」（以下、「検討会議」という。）を設置する運びとなった。

検討会議の取組として、まち歩きやワークショップ、ブレインストーミングを通してエリアのポテンシャルや課題、活性化に向けた方策の検証・検討を行ってきた。また、活性化の機運醸成に向けできることから始めようと、貴重な地域資源をモデルコースで紹介する「マップ型情報冊子」の作成・配布や回遊性向上につながる「ウォーク・ツアー」にも取り組み、エリアに立地する施設・団体間の「顔の見える関係」を着々と育ててきている。

(2) 本報告書の位置付け

本報告書は、

- ① エリアに精通した実務者が各々の視点から活性化の進むべき方向性について意見を出し合い、第一市場の施設整備等、関連する市の施策の情報も入れてまとめたものである。
- ② エリアの概況、歴史、来訪者の動向など、基本的なデータをまとめたものである。
- ③ まち歩きからスタートして課題を抽出、エリア内の資源を特徴と立地から分類し、各々の目指す姿と活性化に向けた方策を示すとともに、エリア全体の連携の在り方にも言及したものである。

本報告書は、平成26年度の「京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会」の基礎資料として活用され、策定委員会において、京都全体の新しい魅力創出につながる将来構想づくりが進められる。

【参考：下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議】

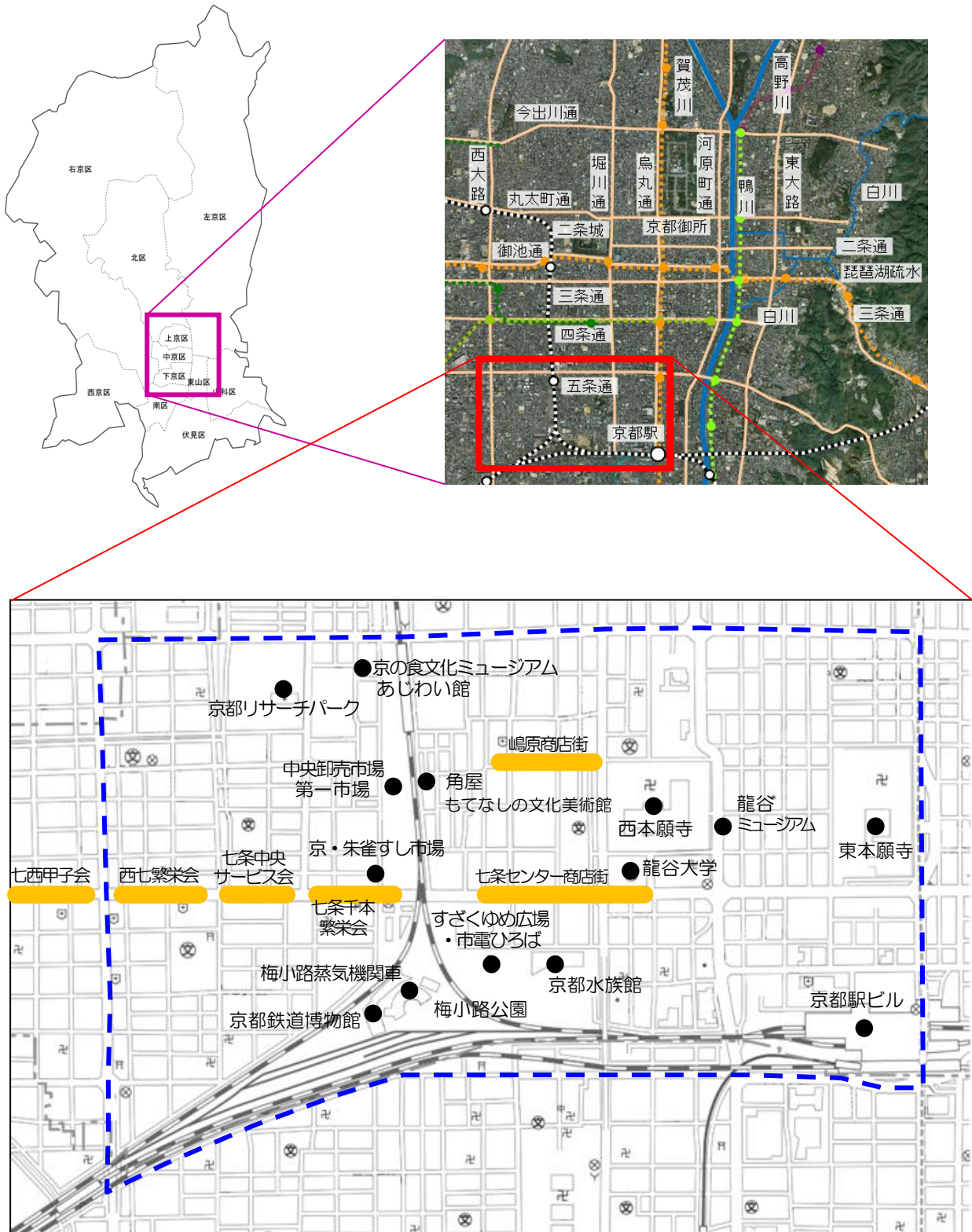
- ・ 設立：平成24年7月
- ・ 目的：下京区西部エリアのポテンシャルや活性化のアイデアについて検討するとともに、これらの取組を通じて地域活性化の機運の醸成を図り、地域の将来像を構想する最初のステップとすること
- ・ 構成：下京区西部エリア内の企業、事業者、大学、地域住民等、24名
- ・ 座長：同志社大学大学院総合政策科学研究科 客員教授 谷口知弘



検討会議の様子

【下京区西部エリアの範囲】

下京区西部エリアの範囲については、概ね梅小路公園を起点に、南北は五条通からJR京都線、東西は西大路通から烏丸通に囲まれた地域を想定しているが、エリアの周辺にも、世界文化遺産「東寺」や新選組ゆかりの「八木家」「壬生寺」など著名なスポットがあるため、連携可能な取組は積極的に取り入れられるよう、エリアの範囲を固定せず、柔軟に対応できるようにしている。



2 下京区西部エリアの歴史

(1) 梅小路公園界隈の変遷

歴史を紐解くと、古くは平安時代、平安京の南部（概ね六条坊門小路～八条大路）、都のメインストリート・朱雀大路を挟んだ場所に現在の下京区西部エリアは位置している。そこは、平安初期から東・西の市や東・西鴻臚館（外交・海外交易施設）といった重要な都市機能が集積する場所であった。

とりわけ現在の梅小路公園界隈にあたる場所は、平安末期にかけ、平清盛をはじめとする平家一門の邸宅群として、「西八条第」が造営された場所でもある。中世以降、幾多の戦乱を経て長らく田畑広がる農村地帯となっていたが、大正2年、旅客や貨物を取り扱う量が増えて手狭になった京都駅から貨物取扱が移され、貨物駅「梅小路駅」が開設された。さらに大型の扇形車庫を備えた「梅小路機関庫」（現在のJR西日本梅小路運転区）や「梅小路貨車区」（現在は廃止）といった重要な鉄道施設が次々と置かれ、梅小路界隈は京都を潤す様々な物資の玄関口へと変貌を遂げていった。

平成2年に梅小路駅の移設が行われると、その跡地を活用して平成7年に京都市が開園したのが梅小路公園である。公園は、平安建都1200年を記念し、「都心の緑の創造」「歴史の継承と未来への飛躍」「緑の文化の発信」をテーマに、緑あふれる市民の憩いの場として整備された。そして、平成20年度、民間事業者によって「水族館」及び「鉄道博物館」の2つの大型集客施設の整備提案がなされたことから、総合公園としての機能と魅力の充実を図るべく、京都市においても公園の拡張再整備が進められることとなった。現在、憩いと賑わいの一大拠点へと進化を遂げつつある梅小路公園界隈の動きが起爆剤となり、その周辺を巻き込んで「下京区西部エリア」活性化の機運が高まりを見せている。

(2) 集積する様々な資源

下京区西部エリアには、梅小路公園界隈のほか、歴史的・文化的価値を有する資源が多数集積している。桃山時代末期～江戸時代初期に現在の地に移転・建立された西本願寺・東本願寺とその界隈には、多くの国宝や文化財、名勝が今も残り、仏教文化・日本の建築美に触れることができる。また、江戸時代初期に現在の場所に開設され、遊宴と文芸盛んな花街として発展した島原は、輪違屋（置屋）を除き昭和後期には花街としての営業を終えたが、島原開設当初から存在する「角屋」が揚屋建築の唯一の遺構として島原の歴史と文化を今に伝えている。

一方、食と産業に関する資源も豊富である。昭和の初め、全国に先駆け日本最初の中央市場として開設された京都市中央卸売市場は、戦時下の困難を経て、今日まで卸売の中核的拠点として大きな役割を果たしてきた。近年、より市民に愛される市場を目指して「京・朱雀すし市場」「京の食文化ミュージアム・あじわい館」を開設したほか、機能強化に向けた施設再整備の動きも進みつつある。また、大阪ガス京都工場の広大な跡地を活用して平成元年にオープンした京都市サーチパークは、京都の産業研究開発、ベンチャービジネス支援の拠点として機能し続けている。このように、下京区西部エリアには、歴史あるものと時代の最先端をゆくものが併存しており、エリアの魅力が多彩になっている。

◎梅小路公園界隈

- 大正 2 (1913) 年 京都駅の貨物取扱を移す形で、貨物駅「梅小路駅」が開設
- 昭和47 (1972) 年 国鉄により日本の鉄道開業100周年を記念して梅小路機関区の扇形車庫を活用した「梅小路蒸気機関車館」が開設
- 平成 2 (1990) 年 梅小路駅の貨物荷役設備を移設
- 平成 6 (1994) 年 第11回全国都市緑化フェアの開催に伴い、2か月間限定で京都駅－丹波口駅間に臨時駅「緑化フェア梅小路駅」が設置
- 平成 7 (1995) 年 国鉄清算事業団所有の梅小路駅貨物跡地11.6haに、市民の憩いの場所として様々な施設を備えるとともに、災害時の広域避難場所としての役割を担う「梅小路公園」が開園
- 平成24 (2012) 年 公園内に京都水族館が開業
- 平成26 (2014) 年 2つの新広場「すざくゆめ広場」「市電ひろば」が開園
- 平成28 (2016) 年 公園内に京都鉄道博物館が開業予定

◎京都市中央卸売市場第一市場

- 昭和 2 (1927) 年 全国初の中央卸売市場として、鮮魚部・塩干魚部・乾物部が開市
- 昭和 3 (1928) 年 青果部が開市
- 昭和15 (1940) 年 第二次世界大戦下の統制経済政策によって市場本来の価格形成機能が奪われ、翌年には仲買制度も廃止
- 昭和22 (1947) 年 果実の配給統制廃止。これを皮切りに、その後生鮮食料品の統制が相次いで撤廃され、仲買制度も復活
- 昭和37 (1962) 年 昭和45年度までの第一次施設整備事業で、駐車場用地の取得、卸売場・中卸売場の拡張整備を実施
- 昭和51 (1976) 年 昭和63年度までの第二次施設整備事業で、青果部施設、水産物部施設、関連施設、中央駐車場等を整備し、現在の施設となる
- 平成 3 (1991) 年 平成13年度までの一般改築事業で、情報事務処理設備、低温卸売場等を整備
- 平成19 (2007) 年 第一市場の重点戦略やその推進に向けた施設整備を具体化したマスタープランを策定（平成24年に改訂）
- 平成24 (2012) 年 中央卸売市場内にすし棟「京・朱雀すし市場」開業
- 平成25 (2013) 年 京の食文化普及啓発施設として「京の食文化ミュージアム・あじわい館」開設

◎京都リサーチパーク（KRP）

- 昭和 3 (1928) 年 京都瓦斯（後に大阪ガスに合併）の工場が五条七本松に建設
- 昭和53 (1978) 年 大阪ガス京都工場が一部を残して操業終了
- 昭和62 (1987) 年 大阪ガスの100%出資で「京都リサーチパーク」設立
- 平成 元 (1989) 年 府と市、地元産業界の協力・連携のもと、全国初の民間運営によるリサーチパークとしてオープン（東地区／1～2号館等）
- 平成 4 (1992) 年 西地区にKRPガスビル完成
その後、平成18年にかけて西地区に3～8号館が完成
- 平成22 (2010) 年 西地区に9号館と京都市産業技術研究所の複合棟が完成

2 下京区西部エリアの歴史

◎東・西本願寺

- 文永 9 (1272) 年 京都東山に大谷廟堂(宗祖親鸞聖人の廟堂)を建立
元亨 元 (1321) 年 初めて「本願寺」を公称
寛正 6 (1465) 年 比叡山の衆徒が大谷本願寺を破却
文明10 (1478) 年 蓮如上人が京都山科に本願寺を再興
天文 元 (1532) 年 山科本願寺が六角定頼・法華宗徒等の手により焼失
翌年、寺基を大坂石山へ移転
元龜 元 (1570) 年 織田信長が大坂石山本願寺を攻め、石山戦争が始まる
天正 8 (1680) 年 信長と講和し、紀州(和歌山県)鷲森へ寺基を移転
天正13 (1585) 年 豊臣秀吉の寺地寄進を受け、大坂天満へ寺基を移転
天正19 (1591) 年 秀吉の京都市外経営計画に基づき、京都堀川七条へ寺基を移転
(現在の西本願寺:浄土真宗本願寺派の本山)
慶長 7 (1602) 年 徳川家康が教如上人に対し、京都烏丸六条に寺地を寄進
慶長8年には阿弥陀堂、同9年には御影堂を建立(現在の東本願寺:
真宗大谷派の本山)
この時から本願寺が西と東に分立
寛永13 (1636) 年 元和3(1617)年に焼失した西本願寺御影堂が再建(現在の堂宇)
寛永16 (1639) 年 学寮(現・龍谷大学)落成
宝暦10 (1760) 年 元和3年に焼失した西本願寺阿弥陀堂が再建(現在の堂宇)
明治28 (1895) 年 建立以来4度にわたって焼失した東本願寺が再建(現在の堂宇)
平成11 (1999) 年 西本願寺御影堂の平成大修復起工(平成21年完了)
平成16 (2004) 年 東本願寺御影堂の平成の御修復起工(平成21年完了)
続いて阿弥陀堂、御影堂門を修復工事中(平成27年完了予定)

◎島原

- 寛永18 (1641) 年 官命により、前身である「六条三筋町」から現在の朱雀野に移転
以降、公許の花街(歌舞音曲を伴う遊宴の町)として発展
※正式な地名は「西新屋敷」であるが、一説では、急な移転騒動が当時九州
で起こった島原の乱に似ていたことから、「島原」と呼ばれるようになった
と言われている
天明 7 (1787) 年 島原開設当初から存在する角屋が拡張の末、ほぼ現在の規模となる
明治 6 (1873) 年 歌舞練場が開設
昭和27 (1952) 年 揚屋建築唯一の遺構として、角屋の建物が国の重要文化財に指定
昭和51 (1976) 年 京都花街組合連合会を脱会
現在は、輪違屋のみが茶屋営業を行っている

3 来訪者調査の概要

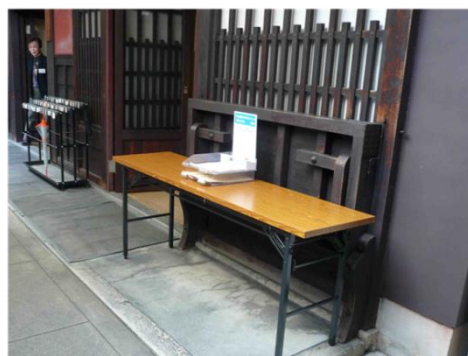
(1) 調査概要

- 調査員による街頭アンケート調査：11月8日（金），9日（土）
 [京都水族館前，梅小路公園（芝生広場），梅小路蒸気機関車館前，東本願寺境内，
 龍谷ミュージアム前，七条通商店街（市場前）の6箇所で実施]
- エリア内施設留置きアンケート調査：11月1日（金）～11月15日（金）
 [京都水族館，梅小路蒸気機関車館，龍谷ミュージアム，角屋もてなしの文化美術館，
 京の食文化ミュージアム・あじわい館，京都リサーチパークの6箇所で実施]

質問項目	調査内容
属性	性別，年齢，居住地，宿泊予定，同行者，来訪頻度
行動特性	来訪目的，訪問施設，利用交通手段
認知度	下京区西部エリアの各施設の認知度
意向把握，施策検討ヒント	下京区西部エリアに欲しい施設・サービス



街頭調査（梅小路公園）



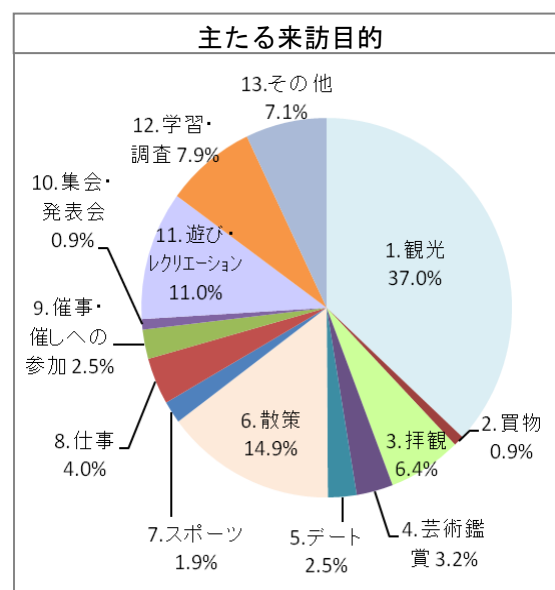
留置き調査（角屋もてなしの文化美術館）

(2) 結果概要

回収総数 808 票（街頭：平日 277 票・休日 362 票，留置き：169 票）

① 主たる来訪目的

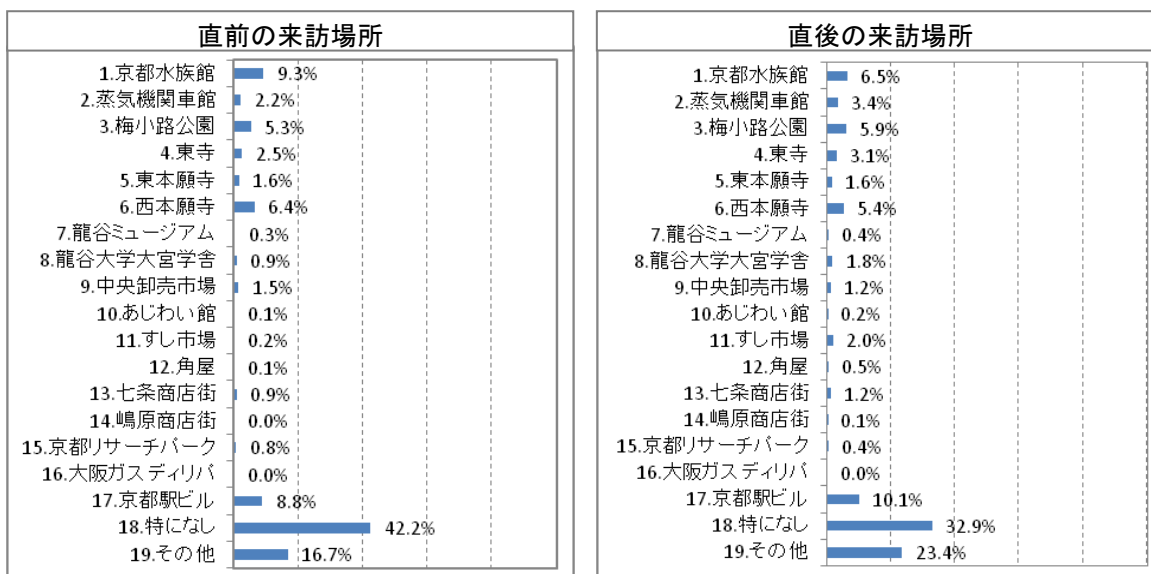
- 「観光」(37.0%) が最も多く，次いで「散策」(14.9%)，「遊び・レクリエーション」(11.0%) の順となっている。
- 複数の商店街を有しているが，「買物」目的の来訪は 1% 未満に留まっている。



3 来訪者調査の概要

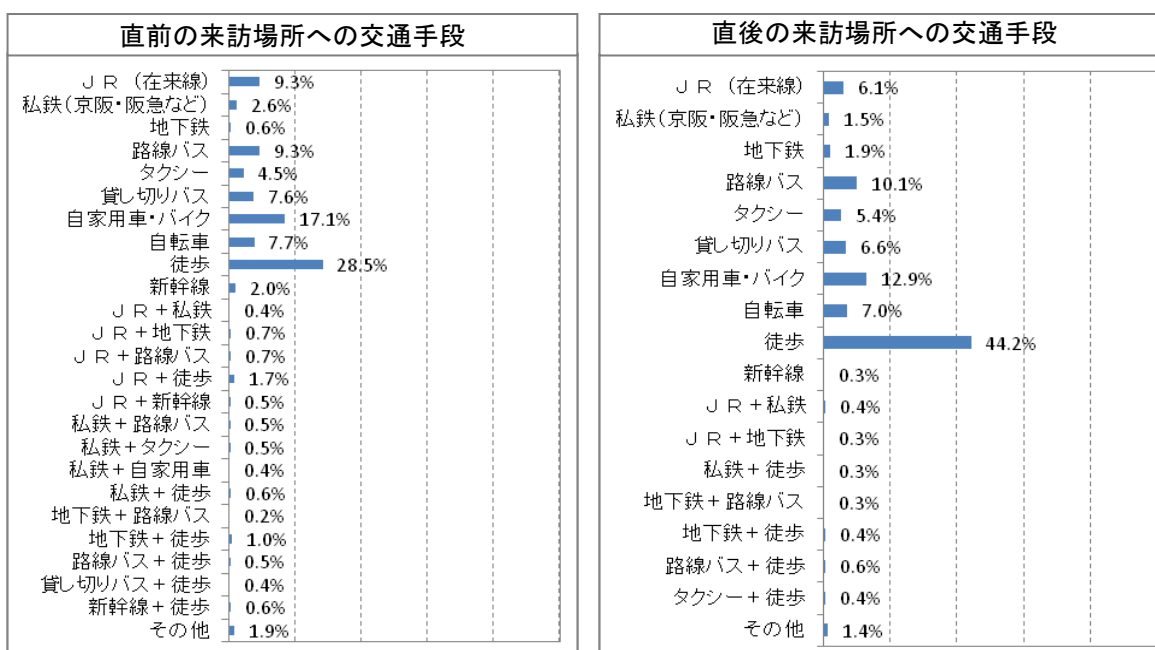
②直前・直後の来訪場所

- ・「自宅・宿泊先から直接来て（特になし：42.2%），自宅・宿泊先へ帰る（特になし：32.9%）」が最も多い。
- ・京都水族館や梅小路公園，京都駅ビル等の大規模施設への来訪もそれぞれ 5～10%程度に留まり，目的施設 1 箇所のみを訪れ，その前後でエリア内の他施設を回遊しない傾向が強いことが窺える。



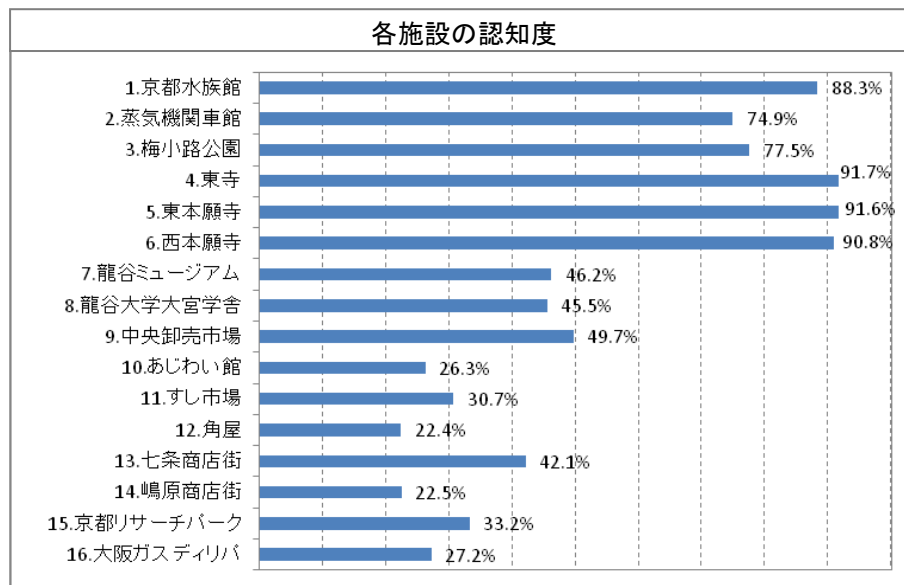
③利用交通手段

- ・行き・帰りとも「徒歩」(行き 28.5%，帰り 44.2%) が最も多い。
- ・次いで「自家用車・バイク (行き 17.1%，帰り 12.9%)」，「路線バス (行き 9.3%，帰り 10.1%)」が多く，鉄道利用よりも自動車利用の方が比較的多いことが窺える。



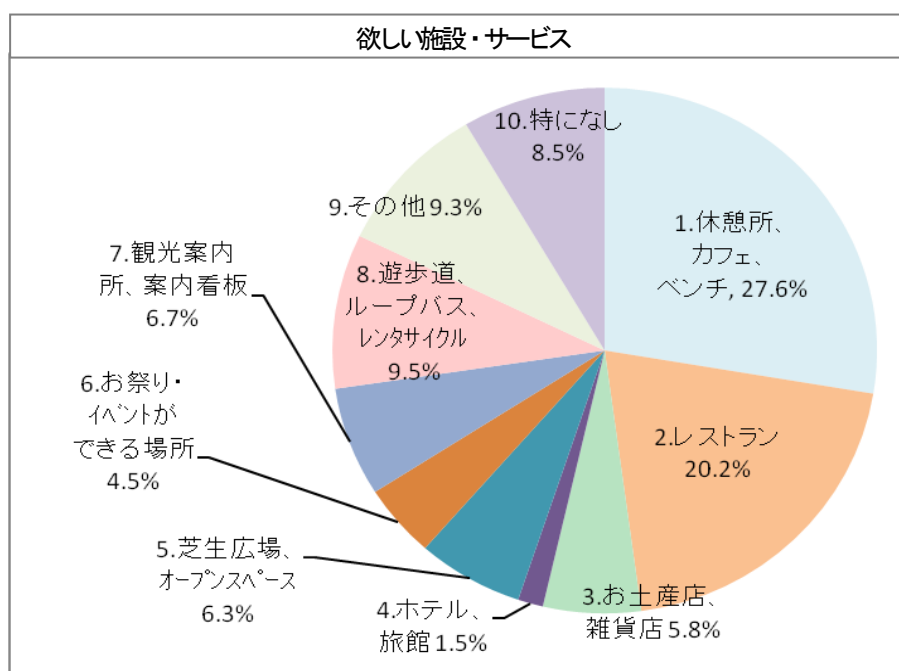
④各施設の認知度

- ・「東寺」(91.7%)、「東本願寺」(91.6%)、「西本願寺」(90.8%)と、寺社の知名度が最も高い。
- ・次いで「京都水族館」(88.3%)、「梅小路公園」(77.5%)、「梅小路蒸気機関車館」(74.9%)と、梅小路公園周辺施設の順となっている。



⑤欲しい施設・サービス

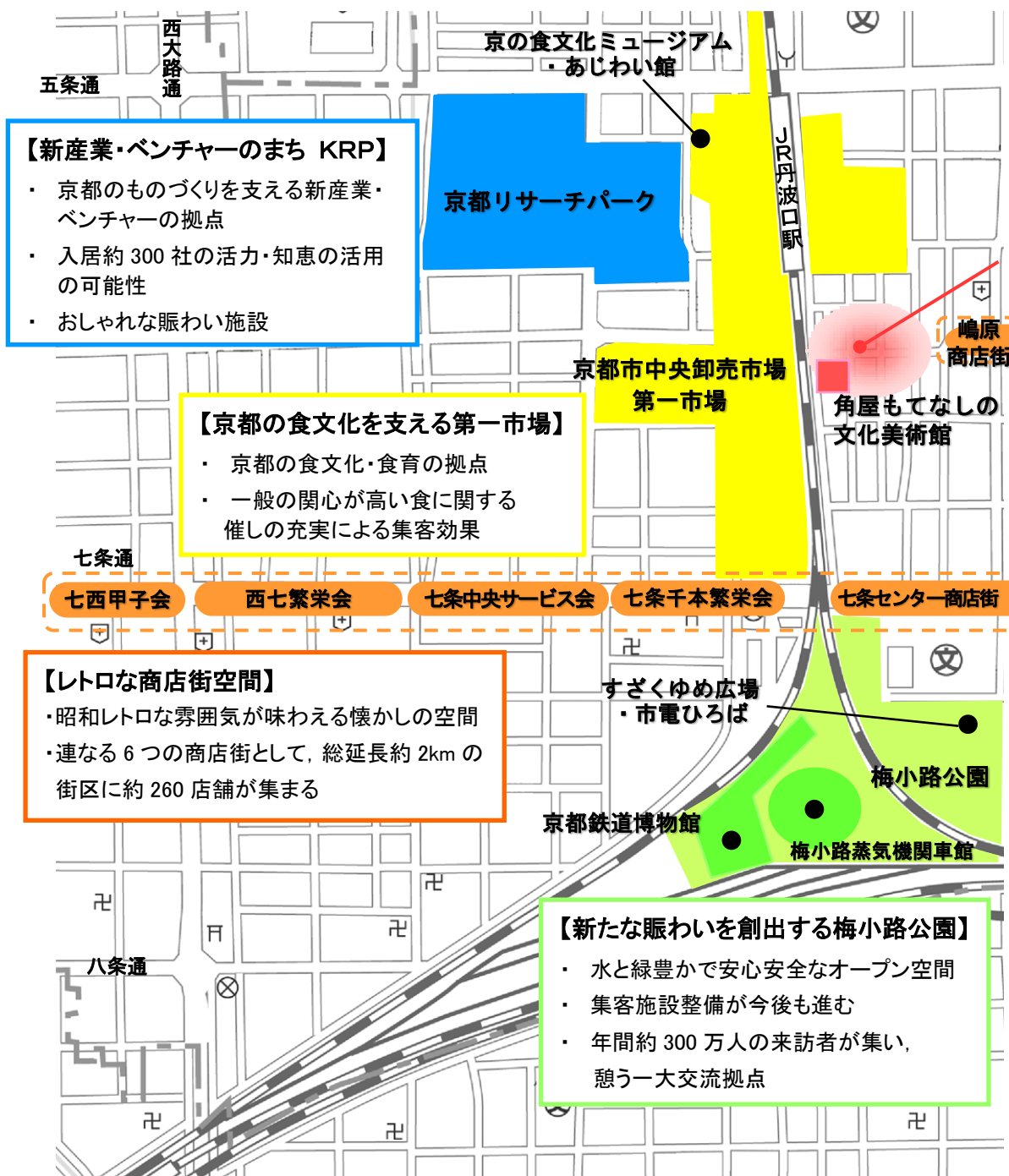
- ・「カフェ、ベンチ等の休憩所・交流スペース」(27.6%)が最も多く、次いで「レストラン等の飲食施設・サービス」(20.2%)の順となっている。
- ・一方、「ホテル・旅館等の宿泊施設・機能」(1.5%)を求める声は比較的少ない。



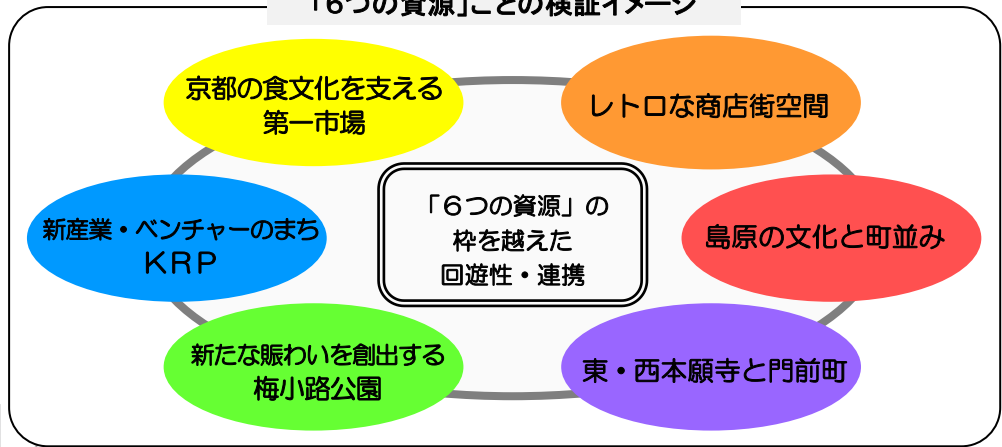
4 下京区西部エリアのポテンシャルと課題，方策

4-1 エリアの特徴「6つの資源」

下京区西部エリアは，広大な領域の中に，様々な種類・客層(ターゲット)の施設が集積している。そこで，検討会議ではエリアの特徴を「6つの資源」に分類し，資源ごとにそのポテンシャルと課題，活性化に向けた方策を検討することとした。その上で更に，資源の枠を越えたエリア全体の回遊性向上や連携強化の方策についても検討し，まとめている。



「6つの資源」ごとの検証イメージ



【島原の文化と町並み】

- ・ 花街文化、維新志士や新撰組など、魅力的な歴史・物語を有し、石畳の景観がロマン溢れる空間を演出
- ・ 京都ならではのもてなしの文化に触れられる

嶋原商店街

七条センター商店街

【東・西本願寺と門前町】

- ・ 多くの国宝や文化財、名勝が集積し、仏教の教えや文化、日本の建築美を堪能できる重厚なエリア
- ・ まちなかに広がる癒しと学びの空間
- ・ 門前町ならではの景観と雰囲気



4 下京区西部エリアのポテンシャルと課題、方策

4-2 資源ごとの検討

資源① 新たな賑わいを創出する梅小路公園

(1) 「梅小路公園」を構成する主要スポット

《梅小路公園》 京都市設置

- 魅力**
- ・都会の真ん中の緑・花→貴重な緑の解放空間
 - ・子どもからお年寄りまで、あらゆる世代が憩い、楽しめる
 - ・イベントが増え、賑わいが増している
 - ・東寺の五重塔、新幹線を借景としたユニークな景観



梅小路公園「すざくゆめ広場」

《京都水族館》 オリックス不動産(株)設置

- 魅力**
- ・京都の新たな観光資源であり、年間約252万人という高い集客力を誇る
 - ・京都ならではの特色ある展示で多様な水生生物を楽しめる
 - ・内陸型としては国内最大級、建物の建て方に工夫あり → 子どもを連れて歩くには適当な規模
 - ・バリアフリーが行き届いている



京都水族館

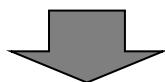
《梅小路蒸気機関車館（平成28年春からは京都鉄道博物館）》

西日本旅客鉄道(株)〈JR西日本〉設置

- 魅力**
- ・歴史的価値のある蒸気機関車の宝庫、ロマンや懐かしさを感じられる
 - ・鉄道ファンに限らず、幅広い層を魅了する充実の展示
 - ・平成28年春には、国内最大規模となる鉄道博物館が完成予定 → 人の流れが更に盛んに



梅小路蒸気機関車館



(2) 「梅小路公園」のポテンシャル・課題

《ポテンシャル》

- ◆ 水と緑豊かで安心安全なオープン空間
- ◆ 集客施設整備が今後も進む
- ◆ 年間300万人の来訪者が集い、憩う一大交流拠点

《課題》

- ◆ 「梅小路」の知名度が低い
- ◆ 公園、水族館、蒸気機関車館（鉄道博物館）間の連携が少ない
- ◆ 食事スペースが乏しい
- ◆ 京都駅から約1.5 kmと、アクセスに課題

(3) 活性化に向けた方策

新たな賑わいを創出する 梅小路公園

＝ エリア全体の活性化を牽引する「核」(コア)

京都水族館と鉄道博物館の建設・開業という民間活力の導入を契機に、再整備が進む梅小路公園は、下京区西部エリア全体の活性化を牽引する「核」(コア) となりうる資源である。

「一度は訪れたい京都の新名所」としての可能性と「市民の憩う都会のオアシス」としての価値、その双方を大切に育みながら、その類稀な集客力が周辺にも波及するよう、エリアの「核」(コア) としての役割強化を図っていく必要がある。

①梅小路公園を拠点とした活発な情報発信

◎多様な情報発信

- ・ 梅小路公園を中心に、エリアの多彩な魅力情報を「エリアマップ」やソーシャルメディア等を活用して幅広くPRする必要がある。

◎梅小路公園の大きな集客を周辺に回遊させる仕組みづくり

- ・ 梅小路公園に集まる年間300万人の来訪者を周辺地域へと回遊させるため、梅小路公園を始点(終点)とした散策モデルコースの設定や、公園内の観光案内機能(案内所、ガイド等)の充実が望まれる。

②「憩い」と「賑わい」のオープンスペースとしての魅力強化

◎公園の拡張、機能向上のPRと既存施設の積極活用

- ・ 京都市による「すざくゆめ広場」「市電ひろば」の2つの新広場の拡張整備(平成26年3月)やJR西日本による「京都鉄道博物館」の建設(平成28年春開業予定)等、子どもから大人まで幅広い年齢層の方々が楽しめ、くつろげる空間へと大きく魅力向上を図っている梅小路公園を、広くPRし、集客増へと繋げる必要がある。



「京都鉄道博物館」館内イメージ

- ・ 「緑の館」と「朱雀の庭」が一体となって織りなす上質な空間をPRするとともに、民間事業者との連携による「庭園ウェディング」や「ミニコンサート」の実施などにより、新たな賑わいを創出する必要がある。

◎公園・水族館・蒸気機関車館(鉄道博物館)の連携強化

- ・ 3施設の横のつながりを深めて更なる集客と回遊を促進するため、タイアップイベントや合同優待企画(割引付き共通チケット等)の実施を検討すべきである。

◎夜の魅力創出と賑わい

- ・ 夜間営業やライトアップ等、夜の魅力創出にも積極的に取り組み、新たな集客に努める必要がある。



「朱雀の庭」ライトアップの様子

4 下京区西部エリアのポテンシャルと課題、方策

◎グルメやショッピングを楽しみながら、人々が憩い、滞留する機能の強化

- ・ 「すぎくゆめ広場」のカフェや「緑の館」のレストラン等，公園内の食事・休憩スペースの周知と利用促進を図り，来訪者がゆっくりと憩い，滞留しやすい環境を整える必要がある。
- ・ 食をテーマにした商業施設に生まれ変わる「京果会館」や「京・朱雀すし市場」，地元商店街等と連携し，グルメやショッピングを楽しめる環境を整える必要がある。



京・朱雀すし市場での食事風景

◎生物多様性を体感できる緑豊かな都心のオアシス

- ・ のびやかな芝生広場と豊かな森が創り出す良好な緑環境の保全はもちろん，水族館と朱雀の庭，いのちの森を巡る「自然観察会」等の取組を通して，回遊しながら多様な生物の「いのちの輝き・つながり」を感じ，学べる都心のオアシスとして機能させる必要がある。
- ・ 災害時の広域避難場所としての空間・機能を引き続き確保すべきである。

③鉄道駅（京都駅，丹波口駅）⇄梅小路公園間のアクセスの改善

◎公共交通サービスの向上

- ・ 人々の来訪意欲を高めるため，アクセス環境の向上に資する対策が重要である。来訪者の利便性に配慮し，バス停の設定や循環・シャトルバスなどの市バスサービスの更なる向上策や，環境負荷の少ない交通手段を検討することが望まれる。

◎歩いて楽しい歩行者ルートの確保

- ・ 徒歩による道のりを安全でわかりやすく，魅力的なものとするために，道路のバリアフリー（歩道と自転車道の分離等）や案内標識の充実を図る必要がある。

資源2 京都の食文化を支える第一市場

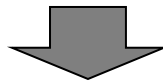
(1) 「第一市場」を構成する主要スポット

《京都市中央卸売市場第一市場》

- 魅力**
- ・日本初の中央卸売市場という歴史性
 - ・京都の食文化、いのちと健康を支える「食の流通拠点」
 - ・広大な敷地、スケールの大きさ
 - ・「食彩市」や「鍋まつり」等、旬の食材が楽しめる市場開放イベント
→ イベントを通して味わえるプロの領域（非日常空間）
 - ・再整備を控えた市場の将来に期待
 - ・すし市場：地域の賑わいを結ぶ魅力的な飲食機能
市場の新鮮な食材を楽しむ
 - ・あじわい館：料理教室や講習会、市場取扱食材を使った展示
試食等の多彩な催しを通じて、五感で京の食文化を楽しむ



(左) 空から見た第一市場
(上) あじわい館でのイベントの様子



(2) 「第一市場」のポテンシャル・課題

《ポテンシャル》

- ◆ 京都の食文化、食育の拠点
- ◆ 一般の関心が高い「食」に関する催しの充実による集客効果

《課題》

- ◆ 施設の耐震化・老朽化へ対応するための再整備が必要
- ◆ 再整備に伴い生じる余剰地の活用（集客施設誘致等）
- ◆ 市民や来訪者の市場への関心・認識がまだ高いとはいえない
- ◆ 梅小路公園やKR P、商店街等、周辺施設との連携が弱い

4 下京区西部エリアのポテンシャルと課題、方策

(3) 活性化に向けた方策

京都の食文化を支える
第一市場



京都の食文化を支え、新たな賑わい創出の
可能性を秘めた目玉スポット

日本初の中央卸売市場として開設された京都市中央卸売市場第一市場は、生鮮食料品の安定供給を通して消費者のいのちと健康を支えるとともに、京都さらには日本の食文化を継承・発信し、生物多様性にも接することのできる重要な拠点である。

「和食」のユネスコ無形文化遺産登録や梅小路公園再整備の動きに呼応し、今後大規模な施設整備による「食の流通拠点」としての機能強化を図るとともに、市民・観光客をターゲットとした新たな賑わい空間の創出にも取り組んでいくことが望まれる。

①中央“拠点”市場にふさわしい「食の流通拠点」としての機能強化

◎大規模な施設整備

- ・ 建物の老朽化・耐震化など第一市場が抱える課題に対応するため、市場施設規模のコンパクト化や施設の重層化(高層化)、物流動線の効率化等の施設整備を行い、中央“拠点”市場(全国でも特に重要な中央卸売市場)にふさわしい「食の流通拠点」としての機能強化を目指していく必要がある。
- ・ コンパクト化に伴い発生する有効活用地についても、その活用方法を検討すべきである。

②施設整備やイベント等を通じた「食」の賑わい創出

◎施設整備に伴う新たな賑わい空間の創出

- ・ 第一市場の施設整備に当たっては、水族館や鉄道博物館の建設・開業を契機とした梅小路公園再整備の動きと連携し、七条通沿いのスペースに新たな賑わい空間の創出を検討していくことが望まれる。
- ・ 賑わい空間の総合的なプロデュースには民間活力の導入を検討し、多くの市民・観光客を引き付ける新しい人気スポットとなるよう、取組を進めていく必要がある。

◎ほんものの中央卸売市場の機能に触れられる見学機会の創出

- ・ セリなど、実際に第一市場が稼働している様子を市民や観光客が間近で見て学べる機会の創出を検討すべきである。
- ・ 安心安全に市場内部の見学ができるよう、来訪者用の動線確保等の環境整備に取り組むことが望まれる。

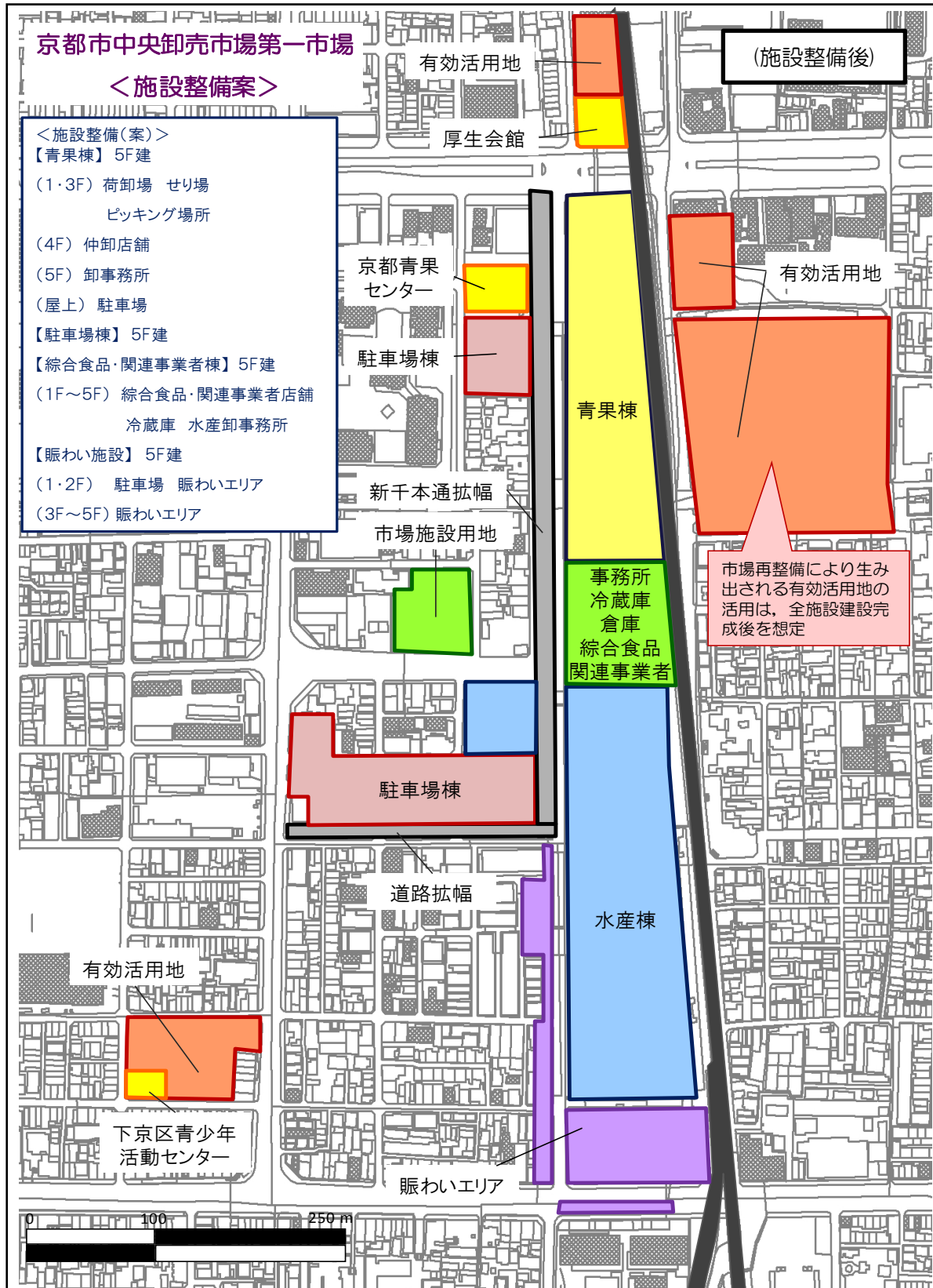
◎市場開放イベントや「あじわい館」「すし市場」の取組の継続と充実

- ・ 第一市場ならではの旬の食材・食品を堪能できる「食彩市」「鍋まつり」等の市場開放イベントを継続し、市民の第一市場への愛着・関心を高める必要がある。
- ・ 京の食文化の継承・発信と市場の活性化、更には「生物多様性」の視点からも重要な役割を担う「あじわい館」や「すし市場」の一層の集客を目指し、情報発信の工夫や催しの充実を図る必要がある。



「食彩市」の様子

- ・ 市場内の食堂や喫茶店など，一般利用が可能で安くおいしいものが食べられるグルメスポットを積極的にPRし，施設整備が完了するまでの間も日常的に市場に足を延ばしてもらえそうな仕掛けづくりに取り組むことが望まれる。



資源③ レトロな商店街空間

(1) 「商店街」を構成する主要スポット

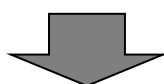
≪梅小路活性化委員会（梅小路界限6商店街）≫

嶋原商店街／七条センター商店街／七条千本繁栄会／七条中央サービス会／
西七繁栄会／七西甲子会

- 魅力**
- ・昔ながらの対面販売，地元密着のレトロな雰囲気が魅力
 - ・なじみやすい町並み
 - ・散策すると，意外と面白い店舗等が見つかる
 - ・小学校等，地域との連携・交流による活性化の試み



商店街の様子



(2) 「商店街」のポテンシャル・課題

≪ポテンシャル≫

- ◆ 昭和レトロな雰囲気が味わえる懐かしの空間
- ◆ 連なる6つの商店街として，総延長約2 kmの街区に約260店舗が集まる

≪課題≫

- ◆ 地元の外からも人を呼び込めるような魅力・目玉がない
- ◆ 空き店舗が増えており，活気が失われつつある
- ◆ 商店街間・店舗間の協力がもっと必要
- ◆ 地域との交流等についての情報発信が弱い

(3) 活性化に向けた方策

レトロな商店街空間



大型商業施設では味わえない
地域色あふれる空間

商店街は、地域の町並みや人の流れ、賑わいを創出する都市機能としても重要な要素である。梅小路界隈の6つの商店街は、総延長約2 kmの街区に約260もの店舗が集まり、レトロな町並みを構成している。また、昔ながらの対面販売で、人と人がふれあい、交流できる懐かしい雰囲気を味わえるゾーンである。そうした空間の魅力を大事にしながら、一方で増えつつある空き店舗の活用や観光客も含めた消費者の購買意欲の底上げを図るため、地域と連携しながら、商店街の活力向上につながる取組を進めていく必要がある。

① 来訪者からも地域からも愛される商店街

◎観光客など新たな人の流れを呼ぶ話題づくり

- ・ 水族館や蒸気機関車館（鉄道博物館）といった近隣の大型集客施設や集客イベントと連携し、来訪者への買い物優待や休日営業を企画するなど、梅小路公園に集まった人の関心を商店街にひきつける仕掛けを検討すべきである。
- ・ 商店街の名物商品を作ってPRしたり、その場で買い食いができるグルメを開発して売り出したりするなど、来訪者の興味の高いコンテンツを重視した魅力づくりに各店舗が連携して取り組む必要がある。



梅小路いきいきフェスタの様子

◎地域との交流促進

- ・ 地元小学校との連携で、児童の就業体験学習の場として商店街を活用するなどの催しを契機に、地域住民との繋がりを強化する必要がある。また、住民＝消費者の目線に立った商店街の賑わいを地域ぐるみで検討し、より地域に愛され、利用される商店街としての魅力向上を図る必要がある。

◎空き店舗の有効活用

- ・ 他の先進事例を参考に、商店街の空き店舗情報を組織として一元管理し、活性化に資する内容の店舗の誘致を行う「空き店舗ストックバンク」のような取組にチャレンジするなど、有効活用に取り組んでいくことが望まれる。

② レトロな雰囲気を歩いて楽しめる歩行者空間の創出

◎来訪者の興味を引き付ける空間の演出

- ・ 京都らしいデザインの暖簾といった共通で店先を飾ることのできるアイテムを作成し、レトロな雰囲気を盛り立てるとともに、商店街を構成する各店舗の統一感・一体感を演出するなど、訪れる人の目を楽しませる仕掛けづくりが必要である。

◎歩行者の安心・安全への配慮

- ・ 歩道と自転車道の分離等により、誰もが安心・安全に買い物を楽しめる環境を整える必要がある。

資源4 島原の文化と町並み

(1) 「島原」を構成する主要スポット

《角屋もてなしの文化美術館・輪違屋・島原大門》

- 魅力**
- ・角屋：江戸期の饗宴・もてなしの文化の場である揚屋建築の唯一の遺構
→ 国の重要文化財（揚屋建築，与謝蕪村筆の屏風等）
 - ・歴史ロマン溢れる空間 → ストーリー，エピソードの充実
 - ・花街文化について知ることができる貴重な場所
 - ・維新志士や新選組との関係性
→ 更なる歴史ファン獲得の可能性
 - ・界隈に島原大門や現在も営業中の置屋「輪違屋」があり，石畳の風情も良い



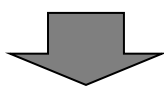
島原大門



角屋もてなしの文化美術館 外観



輪違屋 外観



(2) 「島原」のポテンシャル・課題

《ポテンシャル》

- ◆ 花街文化，維新志士や新選組など，魅力的な歴史・物語を有し，石畳の景観がロマン溢れる空間を演出している
- ◆ 京都ならではのもてなしの文化に触れられる

《課題》

- ◆ 知名度が低い
(見所があまり知られていない)
- ◆ 近隣の鳴原商店街とのつながりが見えない
- ◆ 周辺住宅街との調和が難しい
- ◆ 交通アクセスが不便・分かりにくい

(3) 活性化に向けた方策

島原の文化と町並み



京都ならではの「もてなしの文化」薫る
穴場スポット

揚屋建築の唯一の遺構として国の重要文化財に指定されている「角屋」や現在も営業中の置屋「輪違屋」、「島原大門」（ともに、市の指定・登録文化財）などの優れた歴史的建造物が現存する島原は、江戸期の花街文化を今に伝える情趣豊かな資源である。

その強みを最大限に発揮し、他の観光地とは一味違った歴史・文化の魅力を体感できる穴場スポットとして より多くの来訪者を呼び込むとともに、島原のまちにふさわしい賑わいの創出を図っていく必要がある。

①島原のエリアブランドの構築と、歴史・文化の発信

◎花街文化の“京都をつなぐ無形文化遺産”への選定を契機とした島原の知名度向上

- ・ 京都市による「京・花街の文化」（五花街・島原）の“京都をつなぐ無形文化遺産”への選定（平成26年3月）を契機に、今後、花街の洗練された文化価値の再認識やその保存・継承の機運が高まると考えられる。それを好機と捉え、島原独自の文化やもてなしの心、江戸期を中心とした様々な歴史秘話を発信することを通じて、知名度の向上を図っていく必要がある。

◎あまり知られていない歴史・文化スポットの掘り起こし

- ・ 島原住吉神社や島原大銀杏、7つの文芸碑などの隠れた資源を掘り起こし、角屋・島原大門といった比較的名の知られた場所と合わせて境界の見所を繋いでいく必要がある。
- ・ かつての島原には俳壇・歌壇があり、非常に文芸の盛んなまちであったこと、また、島原の揚屋が「母親孝行の場」として活用されていたことなど、意外性があり、人の興味をひきつける話題に着目して歴史情報を掘り下げ、島原の物語として発信することが望まれる。



角屋もてなしの文化美術館 内部



島原住吉神社

◎「新選組ゆかりの地」のPRなどを通じた新たな島原ファンの獲得

- ・ 歴史上、新選組との関わりが深いことをいかし、「幕末が体験できる場所」として、若年層・女性を含む歴史ファンをとり込めるような情報発信やイベント展開が望まれる。
- ・ 西本願寺や下京区西部エリア外の八木家・壬生寺など、同じ新選組にまつわるエピソードを持つ場所と島原とを繋げてPRし、より多くの人々の来訪を促す必要がある。

4 下京区西部エリアのポテンシャルと課題、方策

◎島原へのアクセス方法の周知

- ・ アクセス方法があまり認知されていない現状を改善するため、鉄道・市バス等の公共交通による来訪手段をわかりやすく周知すべきである。
- ・ 特に、JR丹波口駅のすぐそばという好立地であることをもっとPRし、島原への人の流れを促進する必要がある。

②地域ぐるみでの新たな魅力づくり

◎地元商店街等との連携強化

- ・ 嶋原商店街とのコラボレーションで限定グルメやグッズを開発するなど、地域ぐるみで島原をPRする機運を高めていく必要がある。
- ・ 空き店舗や町屋をリノベーションし、島原のまちの雰囲気にもふさわしい飲食・物販店舗の誘致を検討していくことが望まれる。
- ・ 周辺に立地する外国人観光客向けの宿泊施設で、島原のPRを行う必要がある。

◎歴史ロマンあふれる空間の継承と有効活用

- ・ 島原大門や石畳等、在りし日の風情を偲ばせる景観・建造物をまちの財産としてしっかりと継承すべきである。
- ・ 角屋などの歴史的価値の高い建造物を活用し、五感で学び楽しむ連続講座（座学・特別茶会・和楽器ミニライブ・香遊び）などの体験型の企画を検討する必要がある。
- ・ 通常非公開の建造物（輪違屋、角屋の二階部分）について、所有者との連携のもと公開の機会を創出するなど、国内外の多くの人にその魅力を伝えていく必要がある。
（非公開文化財の特別公開を行う「京の夏の旅・冬の旅」といった既存のツアー系事業との連携も視野に入れる。）
- ・ 太夫道中の復活や、歴史的建造物を舞台としたミニコスプレサミット等、島原の歴史と文化を素材とした新たな賑わいの創出を検討していくことが望まれる。

資源⑤ 東・西本願寺と門前町

(1)「東・西本願寺と門前町」を構成する主要スポット

《西本願寺》

- 魅力**
- ・世界文化遺産であり、国宝・重要文化財等の宝庫
 - ・荘厳で落ち着き、癒される
 - ・圧倒的なスケールを誇る境内に並ぶ美しい歴史的建築物群
 - ・拝観無料で誰でも入れる
 - ・「いちろく市」等の催しを通しての地域連携



西本願寺

《東本願寺》

- 魅力**
- ・京都駅近くの好立地に広がる、静かな癒しの空間
 - ・圧倒的なスケールを誇る境内に並ぶ美しい歴史的建築物群
 - ・拝観無料で誰でも入れる
 - ・各種催し等を通しての地域連携



東本願寺

《龍谷大学（大宮学舎）》

- 魅力**
- ・龍谷大学発祥の地
 - ・重要文化財の建造物が並ぶ穴場スポット
 - ・明治期の瀟洒な西洋建築が貴重・印象的
→ 映画のロケ地にも
 - ・街中でありながら閑静で落ち着く、独特の古風な雰囲気
 - ・学生とのコラボ、連携の可能性



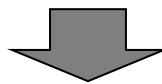
龍谷大学

《仏教総合博物館 龍谷ミュージアム》

- 魅力**
- ・仏教芸術に特化した美術館は、希少価値が高く個性的
 - ・歴史ある町並みと調和のとれた端正な外観
 - ・「いちろく市」等での地域との交流



龍谷ミュージアム



(2)「東・西本願寺と門前町」のポテンシャル・課題

《ポテンシャル》

- ◆ 多くの国宝や文化財、名勝が集積し、仏教の教えや文化、日本の建築美を堪能できる重厚なエリア
- ◆ まちなかに広がる癒しと学びの空間
- ◆ 門前町ならではの景観と雰囲気

《課題》

- ◆ 門徒の方や学生以外にも開かれた場所であることがあまり知られていない
- ◆ 観光資源としての利活用が不十分
→ 施設の本来の目的(宗教施設, 教育機関)との兼合い

4 下京区西部エリアのポテンシャルと課題、方策

(3) 活性化に向けた方策

東・西本願寺と門前町



仏教・文化が育む癒しと学びの空間

東・西本願寺とその門前町一帯は、国宝や重要文化財、名勝などが集積し、宗教都市・京都の魅力を感じることができるゾーンである。

いわゆる社寺観光とは一線を画した「癒しと学びの空間」として、来訪者が仏教の教えや文化、日本の建築美などに触れる機会の創出に地域ぐるみで取り組むとともに、大学が立地する強みをいかして、学生のフレッシュなパワーと感性を活性化に繋げていくことが望まれる。

①より多くの来訪者を引き付けるコンテンツの提供・発信

◎個々のスポットが有する魅力の発信

- ・ 両本願寺の境内が開放的でゆったりと寛げる場所であること、また、門徒以外の一般の方も参加可能な行事が年間を通して行われていることなどを、広くPRすべきである。
- ・ 両本願寺の周辺には宿泊施設が多く、外国人観光客も滞在する。日本文化や仏教に関心の高い方をターゲットにした宗教体験プログラムや宿泊プラン等を検討し、外国人観光客を含む来訪者の呼び込みを図っていくことが望まれる。
- ・ 念珠づくりや金箔貼りなど、老舗に息づく匠の技を実際に体験できる催しや伝統技術を駆使したグッズの開発などにより、門前町に観光客を呼び込む仕掛けを検討する必要がある。
- ・ 国の重要文化財に指定されている本館をはじめ、明治期の瀟洒な西洋建築が織りなす重厚な空間が魅力の龍谷大学大宮学舎が、一般にも開かれたオープンな場所であり、気軽に構内に入れる隠れた名所であることを周知すべきである。
- ・ 他に例のない仏教総合博物館であり、入館者以外の方も利用できるおしゃれなショップ・カフェを備えた龍谷ミュージアムを、この地域の文化・交流拠点として打ち出し、活用していく必要がある。



門前町伝統工芸体験（東本願寺渉成園）

◎本願寺界隈を面的に盛り上げる取組の推進

- ・ そぞろ歩きが楽しめるまちとして、「仏教」や「建築史」など、東・西本願寺と門前町ならではの切り口で見所をつなぎ、点ではなく面として界隈の魅力を発信すべきである。



まち歩きの様子
(国宝：西本願寺唐門)

- ・ 東本願寺の阿弥陀堂 素屋根や西本願寺の飛雲閣といった通常非公開の貴重な建造物をまとめて巡る特別ツアーなどを、門前町とも連携しながら企画する必要がある。
（非公開文化財の特別公開を行う「京の夏の旅・冬の旅」といった既存のツアー系事業との連携も視野に入れる。）
- ・ 東・西本願寺と京都駅ビルの連携によるイベント「下京・京都駅前サマーフェスタ」の充実を図る必要がある。
- ・ 本願寺門前町「いちろく市」など、地域の自主的なイベントを支援する必要がある。



いちろく市の様子

②大学・学生との連携による賑わいの創出

◎学生の成長・学びを地域の賑わいにつなげる取組の推進

- ・ 龍谷大学の学生による様々なサークル活動の成果を披露する場として、積極的に地域の催しを活用してもらい、賑わい増へと繋げていく必要がある。
- ・ 授業（ゼミ）の一環で、イベント実施のサポートや効果的な情報発信の提案をしてもらうなど、地域の活性化に学生を巻き込み、若者の関心を高める必要がある。

◎大学ならではの活性化の機運向上策の検討

- ・ 龍谷大学の協力のもと、下京区西部エリアの施設・団体・事業者が一日講師となり、エリアについて学べる特別講義を開催するなど、活性化の機運向上に資する取組を進めていくことが望まれる。

4 下京区西部エリアのポテンシャルと課題, 方策

資源⑥ 新産業・ベンチャーのまち KRP

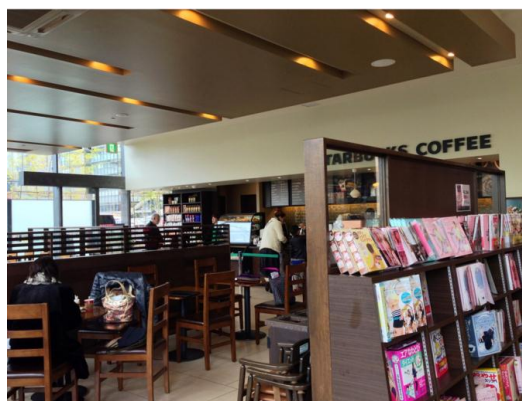
(1) 「KRP」を構成する主要スポット

《京都リサーチパーク (KRP)》 京都リサーチパーク(株) 設置
(大阪ガスグループ 大阪ガス都市開発(株) 100%出資)

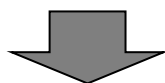
- 魅力**
- ・ 産業研究開発・ベンチャー支援の拠点
→ 京都のものづくりの楽しさが集約されている
 - ・ 伝統産業が現代建築にうまく活かされた建物
 - ・ 施設の充実度が高い (スターバックスコーヒー, ツタヤ, その他レストラン等)
 - ・ 約300社が入居し, オフィス・研究施設・会議室には1日約3,000人の利用がある



KRP 外観



KRP カフェ内部



(2) 「KRP」のポテンシャル・課題

《ポテンシャル》

- ◆ 京都のものづくりを支える新産業・ベンチャーの拠点
- ◆ 入居約300社 (オフィス・研究施設・会議室の利用者は1日約3,000人) の活力・知恵の活用の可能性
- ◆ おしゃれな賑わい施設

《課題》

- ◆ 知名度が低い
→ カフェやレストラン等の魅力施設を有しているながら, 一般の方が施設に入りにくい
- ◆ 地域との接点が少ない

(3) 活性化に向けた方策

新産業・ベンチャーのまち
K R P

京都の先進性を体現し、
新たな交流を生み出す現代建築空間

京都リサーチパーク（K R P）は、京都のものづくりを支える産業研究開発、ベンチャー支援の拠点であり、京都の先進性を体現できる資源である。

新たな交流の創造、地域との接点の増加によって、より多くの人に親しめる空間となることを目指し、現代的でおしゃれなK R Pの空間に一般の方を呼び込む工夫や、逆にビジネスマン・国内外の研究者などのK R P利用者に周辺へ足を延ばしてもらう仕掛けなどを探っていく必要がある。

①市民・地域に開かれた「K R P」の創出

◎K R Pの魅力を感じることができる機会の増加

- ・ 年に一度、K R Pの全地区を挙げて開催する「K R P－WEEK」や、駐車場に日替わりでキッチンカーが登場するグルメイベント「K R P賑わい村」など、既存イベントの周知と集客向上を図るべきである。
- ・ 入居する企業・研究所の力を活用し、伝統産業と先端技術をまとめて体験できる公開セミナーや、普段は見られない研究所の特別見学など、K R Pが身近に感じられるような一般向けの企画の増加を検討する必要がある。



「K R P賑わい村」の様子

◎憩い・賑わい施設を中心としたK R Pの知名度向上

- ・ おしゃれなカフェやレストラン、フィットネスクラブなど、一般の方が利用可能な憩いと賑わいの施設が地区内の各所にあることをP Rすべきである。
- ・ 地区内に立ち並ぶ現代的な建物群の魅力・見所を紹介するガイドツアー等の企画を検討する必要がある。

②K R P利用者への周辺資源の魅力周知

◎周辺資源と関わりを持つ機会の創出

- ・ 約300社の企業や研究機関等が集積するK R Pには、そこで勤務する人々をはじめ、日常的にビジネスマンや国内外の研究者が数多く訪れている。そうしたK R Pの利用者に、食事時に周辺の商店街や市場付近の飲食施設を利用してもらえるよう、周知や優待企画等を検討していく必要がある。
- ・ 島原（角屋）や東・西本願寺、門前町との連携のもと、K R P利用者が伝統工芸や伝統美術に触れることができる機会を設けることなどにより、京都の文化力やK R Pを含む下京区西部エリアのポテンシャルを理解してもらうことが望まれる。

「6つの資源」の枠を超えた回遊性・連携

(1) 現状・課題

- ◆ 下京区西部エリアの「核」である梅小路公園界隈が京都駅から離れていることをはじめ、エリア全体として、交通アクセスが不便である。
- ◆ 個々の施設は魅力的だが、それらを繋ぐ道中に面白味がない。
- ◆ 立地する施設の種類・客層（ターゲット）が多岐に渡っており、エリアとして統一したイメージを持ちにくい。

(2) 関連情報

◆ 京都市バスの路線・ダイヤ充実（平成26年3月）

- ・ 208号系統の増便【土曜・休日】 梅小路公園(水族館)～京都駅～東山通～東福寺
- ・ 207号系統の増便【平日・土曜・休日】 七条大宮(水族館), 島原口～四条界隈～東山方面
- ・ 205号系統の増便【平日・土曜・休日】 京都駅～梅小路公園(水族館)～金閣寺方面
- ・ 岡崎・東山・梅小路エクスプレスの新設【土曜・休日/1日14回】

◆ 京都市バスの案内表示の一新（平成26年3月）

- ・ 市バス路線・ダイヤの充実に伴い、「一目でわかりやすい情報提示」を目指したシンプルでわかりやすい案内表示への一新を行う。
- ・ 京都の玄関口である京都駅前バスのりばについて、のりば全体の案内機能向上を図る。
(例) 駅バスターミナル入り口付近に多言語対応の「駅前バスのりば案内図」と総合案内板(大型モニター)を、各のりばには大型モニター画面による「バス案内表示器」を整備

(3) 活性化に向けた方策

下京区西部エリア全体の活性化には、「6つの資源」それぞれの魅力向上と並行して、資源の枠を超えた回遊性向上と連携強化に取り組む必要がある。エリア交通と催し・情報発信等のハード、ソフト両面からアプローチし、エリアとしてのまとまりと面的な活力の創出に繋げていくことが望まれる。

①地域資源を結ぶエリア交通の充実

◎公共交通サービスの向上

- ・ 京都市バスの路線・ダイヤ拡充、案内表示の改善（平成26年3月）を踏まえ、市バス利用の促進を図るとともに、引き続き、来訪者の利便性に配慮した路線やバス停の在り方等を検討する必要がある。

◎新たな交通手段の導入と既存交通手段の有効活用

- ・ 広いエリアの中での様々な見所・資源を気軽に巡ることのできるツールとして、ループバス等、循環型の新しい交通手段の導入を検討する必要がある。

- ・ バスや鉄道などを補完する交通手段として、環境に優しく動く広告としての役割も持つ自転車タクシーの活用や、より利便性の高いレンタサイクルシステム（複数の駐輪基地を設置、どの基地でも乗り捨て可能等）の構築等について、市域の自転車政策と整合性を図りながら検討していくことが望まれる。



自転車タクシーのイメージ

◎歩いて楽しい歩行者ルートの確保

- ・ 徒歩による道のりを安全でわかりやすく、魅力的なものとするために、道路のバリアフリー（歩道と自転車道の分離等）や案内標識の充実を図る必要がある。

②来訪者が気軽に回遊を楽しめる機会・環境の創出

◎回遊の意欲を高める取組の展開

- ・ 文化や歴史、グルメといった多様な切り口の散策モデルコースの作成や、複数の施設入場料と公共交通機関の利用料がセットになったお得なエリアパスポートの発行など、資源と資源をつないで来訪者の回遊を促す企画を検討すべきである。
- ・ 下京区西部エリアの貴重な地域資源や便利情報等をまとめた「エリアマップ」の発行・配布に継続的に取り組み、目的の施設以外へも足を運ぶきっかけを提供する必要がある。
- ・ 世界文化遺産「東寺」や新選組ゆかりの「八木家」「壬生寺」など、下京区西部エリア外の著名スポット等とも連携し、エリアを越えた回遊の創出も図っていく必要がある。

◎エリアの総合的な観光案内

- ・ 再整備に伴い梅小路公園内に2箇所設置された、市電を活用した「総合案内所」において、下京区西部エリアの施設やイベントなどの総合的な案内も行えるように充実を図る必要がある。
- ・ 外国語対応も視野に入れ、エリアの見所・魅力を案内するボランティアガイドを養成し、エリア内の要所に配置する仕組みを検討することが望まれる。

③エリア連携の強化と総合情報の発信

◎エリアマネジメント組織の設立

- ・ 下京区西部エリアに立地する施設・団体等の「顔の見える関係」を更に強化し、エリア全体で活性化を進めていくためのプラットフォームとして、エリアマネジメント組織の設立を検討する必要がある。

◎エリアについての総合情報発信と知名度向上

- ・ 下京区西部エリアの総合情報を一元的に集め、ポータルサイトやスマートフォン向けアプリ等のICTも活用しながら、発信していく必要がある。
- ・ シンボルマークやキャッチフレーズの作成等を通じて、下京区西部エリアとしての統一的なイメージの発信を試みるとともに、エリア内の施設・団体同士、あるいは関連のある外の施設・団体と協力してイベントの同時開催やタイアップ事業などを展開し、エリア全体の知名度向上を図っていくことが望まれる。

5 地域連携事業（エリア回遊促進事業）

（1）事業の目的

下京区西部エリア活性化の機運醸成に向けできることから始めようと、検討会議の傘下にプロジェクトチームを設置して、魅力情報の発信や回遊性向上につながるイベント等の「地域連携事業」に取り組んだ。本事業の主たる目的は、多くの来訪者に下京区西部エリアの幅広い魅力を知っていただくことであるが、取組を通して、検討会議で育んだ施設・団体間の「顔の見える関係」をより強固なものとすることも目指している。

（2）事業の内容

◆マップ型情報冊子「京都しもし通めぐり」の発行・配布

- ・平成25年10月1日から配布開始
- ・10万部発行、B3両面フルカラー刷りを携帯に便利なサイズに折りたたみ
- ・エリア内の各施設・イベント会場、観光案内所、市営地下鉄駅等で配布
- ・施設や催し等、エリアの貴重な資源の情報を1枚に集約するとともに、それらを巡る4つの散策モデルコースを掲載
- ・入館料割引や記念品プレゼント等の特典付き



京都しもし通めぐり 表紙

◆回遊型イベント「京都しもし通めぐりウォーク」

ツアー概要	スタート地点	参加者数	定員
第1回「エリアの魅力たっぷり大満足ツアー」 10/5（土）角屋見学、あじわい館見学、特製すしランチ 〔同時開催：市民ふれあいステージ、梅小路公園グリーンフェア、 発見！ミニ市場、梅小路いきいきフェスタ〕	梅小路公園 (ふれあい ステージ会場)	111人	120人
第2回『食』のお楽しみツアー ※台風通過後 10/26（土）あじわい館見学、特製すしランチ (同時開催：京都やんちゃフェスタ)	梅小路公園 (やんちゃ フェスタ会場)	31人	90人
第3回「秋の東寺特別拝観ツアー」 ※終日雨 11/10（日）東寺・秋期特別公開鑑賞 (同時開催：下京区ふれ愛ひろば、南区民ふれあいまつり)	梅小路公園 (下京区ふれ愛 ひろば会場)	9人	100人
第4回「歴史ロマン堪能ツアー」 11/16（土）西本願寺見学、角屋見学、嶋原商店街特製お土産 (同時開催：門前叫いちろく市)	西本願寺 伝道院前 (いちろく市会場)	36人	90人
第5回「東本願寺寺内町めぐりツアー」 <事前募集へ切替え> 12/15（日）寺内町店舗見学、涉成園での伝統工芸体験	東本願寺 同朋会館	44人	48人
第6回「新広場オープン記念 梅小路公園の魅力丸ごと堪能ツアー」 3/8（土）梅小路公園内の施設見学、特製すしランチ (同時開催：梅小路公園新広場オープン記念式典)	梅小路公園 (すざくゆめ 広場前)	58人	60人

(3) 事業実施に当たっての工夫

◆事業全般

- ・ 検討会議の傘下に地域連携事業のプロジェクトチームを設置し、地元商店街をはじめとする検討会議外の団体の参画も得ながら、企画を検討した。

◆マップ型情報冊子「京都しもし通めぐり」

- ・ 1枚で下京区西部エリアの魅力情報が網羅できるよう、各施設の平成25年度のイベント情報を漏れなく収集した。
- ・ 来訪者の目線に立って使い勝手の良いマップとなるよう、チームメンバーやエリア施設から情報提供を受けながら、細かい通りや目印となる曲がり角の特徴、公衆トイレなどを落とし込んだ。
- ・ 付加価値を高めるため、各施設の協力を得て、マップ持参者への特典（入場料割引、記念品等）を盛り込んだ。

◆回遊型イベント「京都しもし通めぐりウォーク」

- ・ エリア連携の下で気運を盛り上げるため、異なる施設・団体のイベントを相互調整し、同時開催した。
- ・ 本ツアー限定の入場料割引や参加者へのお土産提供について各施設の協力を得、手ごろな参加料でありながら満足度の高いツアーを実現することができた。

(4) 事業を通して得た成果・課題

◆事業全般

- ・ エリアの関係施設・資源を網羅したマップの作成・配布により、平成24年度から育んだ施設・団体間の「顔の見える関係」が初めて形となり、関係者が一体となって打ち出す取組が本格スタートした。
- ・ 平成26年度も引き続き、関係者の連携の下で事業を継続して行うという気運が盛り上がっている。

◆マップ型情報冊子「京都しもし通めぐり」

- ・ 京なび（京都観光案内所）や主要地下鉄駅、京都水族館などを中心に約10万部を配布し、本マップを携えてエリア内の各施設を訪れる人が増えている。
- ・ 市民や観光客から今後の発行について問合せがあるなど注目されており、情報の更新・充実を行うとともに、配布場所の増加や広報上の工夫を検討する必要がある。

◆回遊型イベント「京都しもし通めぐりウォーク」

- ・ 計6回のツアーを実施し、延べ289人が参加した。
- ・ 「こんな面白い施設があったことを初めて知った」「また参加したい」といったツアー参加者の声を聞いて、来年度はより良い企画を検討したいという施設側の意欲の高まりがみられた。
- ・ 一時参加者数が伸び悩んだが、申込方法を切り替えることで改善した（当日現地での募集制→事前申込制）。興味のある客層に対していかに的確に情報を伝えるかということの重要性を確認することができた。



ウォーク・ツアーの様子

6 今後の取組

平成24年度・25年度の検討会議の取組の成果を踏まえ、平成26年度には、下京区西部エリア活性化の羅針盤となる将来構想が策定される。

また、民間活力をいかした活性化を図るためには、関係者が役割分担と合意形成を図りながらまちづくりや情報発信等の取組を進める「エリアマネジメント組織」が必要である。そこで、検討会議で育んだエリア内の関係者のつながりの下、地域連携事業の継続実施とエリアマネジメント組織の設立に向けた準備が進められる。

平成25年度

下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議

- 下京区西部エリア 将来構想素案づくり
- 基礎調査（エリアの歴史・変遷，来訪者動向調査等）
- 地域連携事業（エリアマップ作成等）

継続

平成26年度～

地域連携事業の継続と エリアマネジメント組織の検討

- 地域連携事業の継続実施
- エリマネ組織の在り方検討

発展

エリマネ組織の設立・活動スタート

下京区西部エリアのプラットフォーム

- エリア全体の情報発信・回遊性など
- 梅小路公園等賑わい創出連携

将来構想 策定委員会

将来構想策定

構想の
推進

連携

<参考資料>

平成24年度 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議 委員名簿

(五十音順, 敬称略)

	団体名	役職名	氏名
座長	コミュニティデザイン研究室 同志社大学大学院総合政策科学研究科	代表 嘱託講師	谷口 知弘
	梅小路活性化委員会	委員長	市村 勝
	大阪ガス(株)	京滋地区副支配人, コミュニティ室長	服部 博一
	オリックス不動産(株)	京都水族館支配人	升本 忠宏
	京都駅ビル開発(株)	取締役営業部長	奈倉 宏治
	京都市	下京区長	山本 耕治
	京都市	総合企画局政策企画室長	柴山 薫
	(公社)京都市観光協会	事務局長	山崎 晶子
	(公財)京都市景観・まちづくりセンター	事務局次長	齒黒 健夫
	京都市中央卸売市場協会	専務理事	北島 誠一
	京都市中央卸売市場第一市場	次長	林 眞佐男
	京都商工会議所	産業振興部まちづくり推進担当課長	外池 順一
	(公財)京都市都市緑化協会	専務理事	北村 康二
	(特活)京都・地球みらい機構	常務理事	高梨 日出夫
	京都府旅行業協同組合	理事長	山本 芳孝
	京都リサーチパーク(株)	営業開発部長	鈴川 和哉
	自治連合会〈大内自治連合会〉	会長	中辻 正次
	自治連合会〈七条自治連合会〉	会長	西村 為彦
	浄土真宗本願寺派(西本願寺)	宗務所所務部<文書担当>課長・総長秘書	中井 真人
	真宗大谷派(東本願寺)	宗務所総務部次長	徳永 誠
	(公財)角屋保存会	理事長	中川 清生
	西日本旅客鉄道(株)(JR西日本)	近畿統括本部京都支社総務企画課(地域共生)担当課長	平野 剛
	(学)龍谷大学	学長室課長	花崎 正順
	龍谷ミュージアム	事務部次長	太田 功

<参考資料>

平成25年度 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議
委員名簿

(五十音順, 敬称略)

	団体名	役職名	氏名
座長	コミュニティデザイン研究室 同志社大学大学院総合政策科学研究科	代表 客員教授	谷口 知弘
	梅小路活性化委員会	委員長	市村 勝
	大阪ガス(株)	京都地区副支配人, コミュニティ室長	佐藤 尚巧
	オリックス不動産(株)	京都水族館支配人	升本 忠宏
	京都駅ビル開発(株)	取締役営業部長	奈倉 宏治
	京都市	下京区長	山本 耕治
	京都市	総合企画局プロジェクト推進担当部長	中村 豊彦
	(公社)京都市観光協会	事務局長	山崎 晶子
	(公財)京都市景観・まちづくりセンター	事務局次長	齒黒 健夫
	京都市中央卸売市場協会	専務理事	北島 誠一
	京都市中央卸売市場第一市場	次長	高木 淳
	京都商工会議所	産業振興部まちづくり推進担当課長	外池 順一
	(公財)京都市都市緑化協会	専務理事	藤井 俊志
	(特活)京都・地球みらい機構	常務理事	高梨 日出夫
	京都府旅行業協同組合	理事長	山本 芳孝
	京都リサーチパーク(株)	営業部長	鈴川 和哉
	自治連合会〈大内自治連合会〉	会長	本政 和好
	自治連合会〈七条自治連合会〉	会長	西村 為彦
	浄土真宗本願寺派(西本願寺)	寺務所内務室課長	三輪 亨
	真宗大谷派(東本願寺)	宗務所総務部出仕	畠山 真
	(公財)角屋保存会	理事長	中川 清生
	西日本旅客鉄道(株)(JR西日本)	近畿統括本部京都支社地域共生室長	平野 剛
	(学)龍谷大学	学長室課長	花崎 正順
	龍谷ミュージアム	事務部次長	太田 功

平成24年度 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議
取 組 一 覧

<p><第1回検討会議> 7月24日(火) 14時～16時 梅小路公園内「緑の館」 1階イベント室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市長挨拶, 下京区長挨拶, 座長挨拶 ・ 講演「京都の成立と下京区西部エリアの歴史的認識そして未来への展望」 〈講師：井筒興兵衛氏(株式会社井筒 代表取締役社長)〉 ・ 下京区西部エリアの現況(概説) ・ 委員 自己紹介 ・ 意見交換(エリアの魅力と課題について) など
<p><第2回検討会議> 10月2日(火) 15時～18時 京都市中央卸売市場 第一市場ほか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回会議の意見交換の総括について ・ 第1回まちあるき(エリア西部) 中央卸売市場第一市場→ JR丹波口駅→ 大阪ガス・ 京都リサーチパーク→ 商店街(七条中央サービス会～ 七条千本繁栄会～七条センター商店街) ・ まちあるき取りまとめ など
<p><第3回検討会議> 10月25日(木) 15時～18時 梅小路公園内「緑の館」 1階イベント室ほか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回ワークショップのまとめ ・ 第2回まちあるき(エリア中部) 梅小路蒸気機関車館→ 梅小路公園→ 京都水族館 → 嶋原商店街→ 角屋もてなしの文化美術館 ・ まちあるき取りまとめ など
<p><第4回検討会議> 11月14日(水) 15時～18時45分 龍谷大学大宮学舎 清風館B101ほか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回ワークショップのまとめ ・ 第3回まちあるき(エリア東部) 龍谷大学大宮学舎→ 西本願寺(本願寺)→ 龍谷ミュージアム → 東本願寺(真宗本廟)→ 京都駅ビル ・ まちあるき取りまとめ など
<p><第5回検討会議> 12月20日(木) 15時～17時20分 龍谷大学大宮学舎 清和館3階ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回ワークショップのまとめ ・ 意見交換(全3回のまちあるきの総括, エリア活性化に向けて) など
<p><第6回検討会議> 2月6日(水) 15時～17時 京都市産業技術研究所 2階多目的ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回ワークショップのまとめ ・ 今後の進め方について ・ 講演「エリアマネジメントと下京区西部エリアの活性化」 〈講師：高梨日出夫委員((特活)京都・地球みらい機構 常務理事)〉 ・ 意見交換 など

<参考資料>

平成25年度 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議
取組一覧

<p><第1回検討会議> 6月19日(水) 14時半～17時 梅小路公園内「緑の館」 1階イベント室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新任委員の紹介 ・ 平成24年度の取組について ・ 平成25年度の取組の進め方について ・ 下京区西部エリアの広報上の呼び名について ・ 地域連携事業について など
<p><第2回検討会議> 8月23日(金) 15時～17時10分 京都市中央卸売市場 第一市場 関連10号棟 3階 大会議室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新任委員の紹介 ・ 第1回検討会議の振り返り ・ 「地域連携事業」企画案について (プロジェクトチーム会議検討内容報告) ・ 資源ごとの「目指す姿」と「活性化に向けた方策」についての意見交換 (梅小路公園, 第一市場) など
<p><第3回検討会議> 9月24日(火) 15時～17時 龍谷大学大宮学舎 清和館3階ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携事業の進捗状況について ・ 資源ごとの「目指す姿」と「活性化に向けた方策」についての意見交換 (島原界限, 東・西本願寺界限, KRP) など
<p><第4回検討会議> 1月10日(金) 15時～17時15分 京都市産業技術研究所 2階多目的ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携事業の実施状況について ・ 基礎調査の実施結果について ・ 京都市中央卸売市場第一市場施設整備基本構想(案)について ・ 「6つの資源」の枠を超えた回遊性・連携についての意見交換 ・ 平成26年度の下京区西部エリア活性化の進め方についての提案 など
<p><第5回検討会議> 3月25日(火) 15時～17時 梅小路公園内「緑の館」 1階イベント室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討会議報告書のまとめについて ・ 平成26年度の下京区西部エリア活性化の取組について ・ 意見交換 ・ 報告事項(京都市中央卸売市場第一市場施設整備基本構想(案)に対する市民意見募集の結果について) など

プロジェクトチームでの企画検討

10/15 地域連携事業実施(マップ発行、ウォーク・ツアー)

11月 来訪者調査

